

南部地域産業復興推進大会開催協議会御中

南部地域産業復興推進大会 in 水源地のむら～紀伊半島大水害からの復興に向けて～

「スローライフ逸村逸品展」開催報告書

特定非営利活動法人スローライフ・ジャパン

1 業務概要

1) 業務名称

南部地域産業復興推進大会 in 水源地のむら～紀伊半島大水害からの復興に向けて～「スローライフ逸村逸品展」

2) 開催地

奈良県吉野郡川上村

3) 実施期間

平成 25 年 11 月 23 日(土)・24 日(日)

4) 業務内容

奈良県南部の産業振興のために、その見本となる全国の優良地場産品の実物を集め展示し、参考にしてみらう。

2 「スローライフ逸村逸品展」の開催

1) 目的

- ①奈良県南部の産業振興のために、その見本となる全国の優良地場産品の実物を集め展示し、今後の奈良県南部での商品開発の参考にしてもらう。
- ②展示品を広く公募することで、「スローライフ時代の優れたものとは何か」「良い村と良い物はともにあること」その考え方を広める。
- ③ 全国への呼びかけにより、「なんゆう祭」「スローライフ・フォーラム」「川上村」の存在を知らしめる。

2) 概要

- ①名称： 「スローライフ逸村逸品展」
- ②日時： 平成 25 年 11 月 23 日(土)10 時～16 時
24 日(日)10 時～17 時
- ③会場： 川上村「やまぶきホール」3 階展示ギャラリー
- ④展示品： 100 点
- ⑤展示方法： 白布掛け長テーブルに平均 3 点展示。壁面に説明コピー。配布用商品チラシ、自治体案内チラシなどを横置き。全 100 アイテムの詳細リストを来場者に配布。

3) 展示品

① 対象品

「スローライフ逸品」とはただ単に優良品であるだけでなく、地域とのつながりを重視しながら、8 項目の要件で定義づけた。すべてに当てはまらないにしても、こうした方向でものづくりに取り組んでいるものを対象とした。

- ・ 地域資源を活かしたもの
- ・ 地球にやさしいもの
- ・ 心と身体を健やかにするもの
- ・ 生活提案のあるもの
- ・ 物語と技を感じるもの
- ・ 納得価格で買いやすいもの
- ・ 美しい、楽しいもの
- ・ まちづくりや住民の動きが感じられるもの

② 募集方法

- ・平成 25 年 6 月 10 日～10 月末まで NPO スローライフ・ジャパンホームページで。
- ・メールマガジン「週間スローライフ瓦版」(約 3500 人に送信)で、計 19 回呼びかけ。
- ・案内メールをスローライフ学会会員、スローライフ関係自治体・団体へ
- ・自薦他薦問わず、事務局から参加打診をしたケースも含む。
- ・なるべく地域の偏りがないように集める努力をした。

③ 点数と傾向

- ・全国 47 都道府県から 100 点が集まった。地域に密着したのものと、やはり食べ物が多かった。
- ・100 アイテムのなりたちとしては、「食」関連が半数以上 (52 点)、地域伝統の技・資源の利用・それらへの新たな試み (15 点)、衣・健康、美容・器 (12 点)、教育・玩具 (11 点)、その他 (10 点)。

④ 展示品詳細

※別途リスト参照

4) 広報

①事前

- ・「スローライフ・フォーラム in 水源地のむら川上」パンフレットの配布。
- ・NPO スローライフ・ジャパンホームページ、メルマガで。
- ・地元報道関係、出版関係、商工会などへリリース。

② 当日

- ・ミニチラシを大滝ダムサイト・会場周辺で手配り

③ 経常的に

- ・フェイスブック「逸村逸品」で逸品を一つずつ紹介。

3 開催の効果

1) 来場者数

- ・23 日 126 人 / 24 日 194 名 合計 320 名
- ・男女比は若干女性が多く、親子連れで子ども (年少～小学生) の来場も意外に多かった。

2) 来場者からの感想

- ・購入したい。
- ・作ってみたい。
- ・食べてみたい。
- ・食べ物については試食したい。
- ・もっとゆっくり見たかった。
- ・地場産品開発の参考になった。
- ・展示品を暮らしの中に取り入れたい。
- ・それぞれのアイディアに感心。
- ・ユニークで楽しいものばかり。
- ・こういうものが各地にあることを知り、感動。
- ・初めて目に触れ、接したものばかり、ひとつひとつがとても興味深い。
- ・こういうものを日常の中で活かしたい。生活の中、仕事の中にどのように取り入れたらよいか、いろいろ考えさせられた。
- ・この場を逃したら、どのようにしたら手に入るのか。
 - ・日本は広い、皆、頑張ってるなあ、と実感。
 - ・自分の地域ももっと商売気を出して、いいものを作りお金にしないで。
 - ・鹿肉の利用や、放置竹の利用などやればできると思った。
 - ・これまで価値のないと思っていたものが、商品になる。
 - ・まちぐるみで取り組んだり、物語のあるものがおもしろい。
 - ・我が地域でも、この工夫はできると思う。良いことはまねしたい。
 - ・すごいなあ、どうやって作るんだろう？というものがあつた。

3) 出展事業所・事業者の感想

- ・奈良県川上村の地域に少しでも自分のところの品物を知ってもらえれば。
- ・多少でも地域振興の参考になれば。
- ・小さなところでも、こんなこと頑張っていますよ！と励ましあいたい。
- ・身近な地域にこんな「逸品」があります、とみんなに知らせたい。
 - ・自慢の逸品です。自信があります。
 - ・東京以外で、地域の物を地域の人に知らせたい。
 - ・実際に川上村までは行けなかったが、展示風景の写真や、展示品リストを見るだけでとても参考になった。
 - ・本当は飛んで行って、自分の言葉で説明がしたかった。

4 今後に向けて

1) スローライフ時代の逸品とは

昨年、富山県高岡市で開催した「スローライフ逸品フォーラム in 高岡」において、「逸村逸品」の考え方が生まれた。

世の中の軸足が「大きく・強く・速く」「東京中心・経済優先」から「ゆっくり・ていねいに・安心安全で」「地方地域重視・人間本意」になりつつある。かつての“一村一品”から“逸村逸品”へ——。優れたまちから良いものが生まれ、良いものがまちを育てる。それがスローライフ時代の、ものづくりのあり方だ。

おりしも今回の南部地域産業復興推進大会「なんゆう祭」は、ゆっくりとした時間の流れる奈良南部の産業復興がテーマ。そして、一環として行われた「スローライフ・フォーラム in 水源地のむら川上」のテーマは『「むら」に暮らす』だった。

日本のふるさとともいえる奈良県南部の市町村の暮らしを紡ぐ「もの」、そして地域の顔となる「もの」、なりわいとして作られる「もの」、それは日本中の手本になる「スローライフ逸品」であってほしい。

これからのスローライフ時代を形作る「もの」は、奈良県南部のような自然と人が共存する「むら」から生まれてくると考える。

2) 「逸村逸品展」の役割

そうした中での今回の「逸品展」開催は、来場者の感想にもあるように、奈良県南部のものづくりの参考になったはずだ。東京では、全国の地域おこし逸品や地場産品に出会うことが容易い。情報も現物も、自治体アンテナショップに集まり、地域資源や地域おこしに焦点を合わせたコンセプトショップはいくつもできている。

それが地方で、しかも人口の少ない奈良県南部、川上村で、全国47都道府県の何らかの特色を持つ、際立った逸品の実物を手にとって見る場ができたことは大きな意味をもった。

「もの」は、多くのことを語る、人にメッセージを伝える。今回集まった100アイテムが、奈良県南部の産業おこしのために何らかのヒント、提案、勇気となっていけよう。

また、今回の展示会場で長時間遊ぶ親子が何組かあった。良いものは良い時間を作る、そんな印象も持てた。すべての展示物を撮影していく人、すべてのチラシを持ち帰る人、そんな積極的なかわりのその先で、新しい逸品が育つことを期待したい。

3) 奈良県南部の逸品作りに向けて

今回はできなかったが、奈良県南部全体から「スローライフ逸品」を集め、展示する。また「逸品展」に向けて新逸品を開発する。「逸品研究会」を作り、定期的に勉強する。など、今後の動きは多様な可能性をもつ。

B級グルメや、一時の際物が横行する中で、奈良県南部のむらからは、スローライフ時代の本物を全国へ送り出し、全国からその逸品を求めて人が足を運ぶように、それを仕掛けていこう。

5 会場の様子



◆南部地域産業復興推進大会 in 水源地のむら
～紀伊半島大水害からの復興に向けて～
「逸村逸品展」開催報告書◆

.....

NPOスローライフ・ジャパン
〒160-0002 東京都新宿区坂町 21 リカビル 301
電話 03-5312-4141 FAX 03-5312-4554
E-Mail/ slowlifej@nifty.com
2014年1月30日